

「ゆりばらざ」や「自由食堂」には、観光客だけではなく、多くの地元客が訪れる。

秋田 鳥海山麓

# どっつお蕎麦

大友商店



商標とれたて!!  
take out a trademark



大友商店

## 鳥海山の恵みで地域活性化を!

帰郷して秋田県の物産を取り扱うECサイトを開設後、由利本荘市物産館「ゆりばらざ」の運営を引き継ぎ、本荘駅前市場内に「自由食堂」を開業。令和元年7月に商標登録された「鳥海山麓どっつお」(第6160536号)シリーズで、地域の魅力を全国に発信している。

### 鳥海山の恵みを売り出す

18歳で上京、32歳で独立してアパレル系の企画会社を運営していた大友孝徳さんは、震災を機に帰郷のための具体的なプランを考え始めたという。2017年、築きあげてきた人脈と培った目利き力を携え、由利本荘市に37年ぶりに帰郷。かつて商店を営んでいた実家の「大友商店」の屋号で、秋田県の物産を扱うECサイトを開設した。顧客のニーズを捉え、自らが選び磨いた品揃えでリピーターを増やし、中でも「鳥海山麓どっつお蕎麦セット」はヒット商品となっている。「鳥海高原で菜の花の連作障害回避のために植えている蕎麦の販路を探している、と地元企業から声がかかり、鳥海山の麓で育まれた蕎麦に特製のつゆや地物の山菜などを組み合わせた商品を共同開発しました」。手応えを得た大友さんは、2018年に「鳥海山麓どっつお」を商標出願。翌年7月に商標登録され、「鳥海山麓どっつお」シリーズとして、さしぼ(イタドリ)の芽)やとうもろこし等、鳥海山麓の自然環境や伏流水がもたらす地元ならではの食材を中心に、様々な新商品を開発中だ。



### 未来を担う子供たちのために

「大友商店」に加え、「ゆりばらざ」や「自由食堂」の運営など、着実に地元のにぎわい創出に貢献している大友さんの目は、未来を担う子供たちにも向けられている。「新型コロナによる休校で、給食がなくなり困る子たちがいるというニュースを見ました。ここにはそんな子どもはいないだろうと思っていましたが、実際は見えていなかっただけでした」。

4月に「自由食堂」で、小学6年生以下を対象に朝食の無料提供を試験的に実施したところ、予想以上の利用があったため、応援金を募りながら“子ども食堂”を継続している。7月には、“子ども食堂”だけでは使いきれないほどの応援金が貯まったため、鳥海高原に来て、食べて、遊べるイベント「鳥海山麓け(来)け(食)まつり」を主宰。鳥海山麓産のとうもろこし「どっつおきみ」の配布や、複数の地元企業の賛同により子どもへ食事の無料提供などを行い、多くの家族連れでにぎわった。

「子どもたちには、鳥海山に抱かれ、温かい人たちに囲まれたここに生まれたことを誇りに思ってもらいたい」と話す大友さん。雄大な鳥海山の麓で、未来のために地域の魅力を磨き上げながら発信していく。



代表  
大友 孝徳  
Otomo Takahiro

### 大友商店

T015-0076  
秋田県由利本荘市東町15  
由利本荘市文化交流館カダーレ内  
TEL. 090-3474-0229  
<https://otomoshouten.thebase.in/>

### 会社概要

秋田県産品を中心とした商品開発・販売  
「ゆりばらざ」(カダーレ内)、自由食堂  
(本荘駅前市場内)運営

